

3. とよのの宝箱

(1)走落神社に伝わる古面 / 2024.2.28 町指定文化財に指定

今から400年以上前の室町時代の古面(鼻高面)が、町指定文化財に指定されました。

一対の古面で永禄2年己未(1559)(つちのとひつじ)の銘があります。旧川尻氷川神社から1906年(明治39年)に明治政府から神社合祀令がだされ、旧東能勢村にあった9つの神社を合祀し、明治40年に走落神社に移された経緯があります。

この古面は木製で青色面の口は閉じ、赤色面の口は開ける。古面は二面とも鼻が高く作られています。赤色古面の裏には墨書で額部分に梵字で「ア」、青古面には梵字で「ウン」と記されています。

作者は「川尻別當皆乗」と記されており、面の用途は、節分の際の豆撒きの起源となったとも、後に疫病を追い払う儀式に使われたとも云われています。経年劣化による損傷が見られ、今後、文化財補修後に一般公開に期待したい。(上山 秀雄)



裏面(赤色面) 裏面(青色面)

(2)光明寺の親鸞木像 / 2014年に町指定文化財に指定



(表面) (裏面)

高山地区の光明寺の始まりは勝尾寺から…真言宗から始まっています。建暦元年(1211)、親鸞聖人(浄土真宗)が法然上人(浄土宗)の徳を慕って勝尾寺に来たとき、親鸞の教えに深く感銘した。勝尾寺の一部の僧たちが高山の光明寺に移り、1233年真言宗から浄土真宗へ改宗しました。この時、光明寺にあった十一面観世音菩薩と瑠璃光如来は牛頭天王(現住吉神社)へ移されています。

親鸞木像は鎌倉期に造られたもの。像高24.7cm、頭毛は正面で左右に振り分ける。耳を覆って両肩から腰まで長く垂らす。ヒノキの一本造り、元は色彩造りであったが、後に黒に塗り替えられています。(上山 秀雄)

4. 右近の足跡を訪ねて

右近列福(2017年)の3ヶ年程前から、右近を訪ね、車やバスを仕立て出かけてました。フィリピン・マニラにもご一緒させていただきました。九州方面は所用のついでに巡ってました。

右近の記録が残っている所 20ヶ所程を巡り、右近冊子(A5版42P)や右近要約版(A3両面 最新版は2023年改定第3版)を編纂し、何度か右近セミナー等で報告させていただきました。

ただし、未だに訪問をためらう所がヶ所あります。前田氏配下での小田原征伐地です。例の十字の旗を掲げ、女性、子供達にも容赦なく、八王子城を一日で陥落させ、地元では今も地獄絵の世界と伝えられている所です。利家に世話になり2年目の右近、戦より信仰の世界に身を置いたはずの右近の生きざまとは少し異なって映ります。そろそろ小田原城址に出かけ、足跡訪問も区切りにしたいと思っています。(福原 俊作)



右近苦戦 賤ヶ岳の戦い 安土城大手道



- 20 右近末裔(志賀の高山家)
- 21 右近末裔(大分の高山家)
- 14 前田家客将
- 5 秀吉布陣の視察
- 16 小田原城攻め
- 10 明石6万石(船上城)
- 19 マニラ追放

あとがき

振り返ると5年余り、三役会と各事業部会合同で「豊能町観光協会だより」の発行に携わって来ました。折角作るならと、A3版両面4頁構成の折りパンフレット形式の観光協会だよりを、年に4回程度皆さまにお届けしようと目指し、それ以外にも時折、特集号等を発刊させていただきました。

読者の皆様を含め、多くの方々に記事を依頼し、ご一緒に推敲、校閲等を重ね、おかげさまで多様な紙面が作れたのではと思っております。ありがとうございました。

次号より新体制の下で、発行に携わっていきます。ご期待下さい。(福原 俊作)



豊能町 観光協会 だより

2024年(令和6年) 6月号

〒563-0292 豊能町余野414-1 豊能町観光協会事務局(豊能町役場内) (T)072-739-3424 (F)072-739-1919

はじめに

この5月に第37回通常総会を終え、豊能町観光協会の24年度が始まりました。前年度は4事業部会(整備事業、共催事業、主催事業、観光開発)で、豊能観光を盛り上げる2か年締め的一年でした。「待ち受け観光」に「働きかけ観光」を加えていこうと、各部会それぞれが励みました。豊能巡りをさせていただくには案内看板類が重要で、既存看板の現状確認(180余り)や建替等に着手しました。

観光協会が参画・主催する催しもコロナ禍前の状況に戻り、新たな試み(アサギマダラ鑑賞会や図書館講座)に加え、豊能の魅力アップを推し進めてきました。外に働き掛ける試みとして、観光情報のデジタル化を図り、多言語化も整え、訪日者も意識した仕組み第一版(スマホでとよの巡り)を用意しました。

24年度は各部会のこうしたノウハウを活かし、更に観光資源を磨き、町の賑わいに繋げていこうと、推進体制を強化しています。観光協会のこれからの更にご注目下さい。

1. 「豊能自然図書館講座」の開催 主催事業部会

豊かな自然と歴史風土に恵まれた「豊能町」。「豊能自然図書館講座・第1回目」(1月20日)を、豊能町立図書館集会室で開催しました。樹木の基礎知識を学んでみませんか?の呼びかけに26名の参加申込がありました。

町の恵まれた自然を優しく室内でパワーポイントを使い紹介する。樹木の基礎知識は講師の体験・経験を通した内容で、ひと味違った講座でした。「地球上に植生している樹木には各々個性があり、生きる戦略を持っています等…。」

樹木の基礎を学ぶことにより新たな発見と自然の偉大さを感じます。室内での座学を終え、消防署隣の公園へと舞台は移動。公園内の樹木の現地観察会です。知ると面白い樹木に、あの木はこの木は何の木…ですか? 日頃、見落としていた木に関心が…疑問・質問が飛び交う。楽しい自然図書館講座でした。

参加者から「新しい発見でいっぱいでした」とアンケート用紙に書いて頂いた。

講座講師は 観光協会の理事/清水忠様でした。(上山 秀雄)

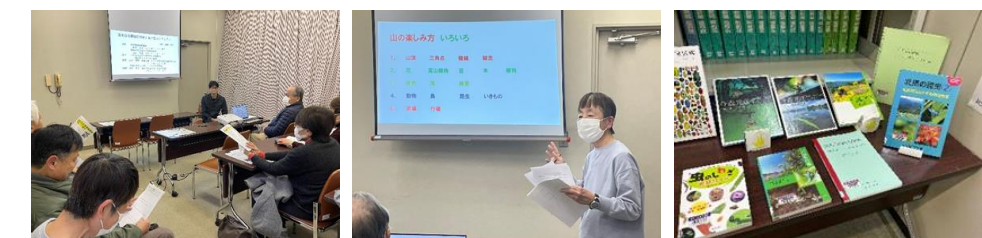


2月17日(土)に開催された第2回目講座は参加者17名。講師は、昆虫が好きで豊能町の生態系を学び自然保護に努めている二宮知宏さん。「ハリガネムシはカマキリに食べられ寄生成長し、水中でカマキリから出て産卵、カマキリは魚や水中昆虫の餌となる植物連鎖によって河川の生態系が保たれている」「オオクワガタの産地として有名だった北摂の山林が里山の放置からカシノナガキムシの大発生によって『ナラ枯れ』となった現状」についてのお話を聞きました。

後半は「豊能町の山の楽しみ方」について、東ときわ台の梅崎満子さんが山歩きコースや花・植物・動物・野鳥・昆虫等々、見どころについてお話いただきました。参加者からも我々の住んでいる豊能町の良さについての質問や意見がたくさん出ました。

3月16日(土)には「トヨノノバードウォッチング講座・入門「春秋編」(講師 熊谷 隆氏)を、4月20日(土)には「高代寺山の自然観察」(講師 高原 富佐子氏)を開講しました。

これらについては、紙面の都合により、今回号ではご紹介できませんでした。別号等で、報告させていただく予定です。(榎谷 靖司)



2. 第25回とよの大好きフォトコンテスト(2023年度募集作品)の紹介(敬称略)

2月23～25日に西公民館で展示会を開催し、最終日に 町長、審査委員長 小杉先生、能勢妙見山観光協会様 等にご出席賜り表彰式を執り行いました。その後の作品品評会も盛り上がりました。

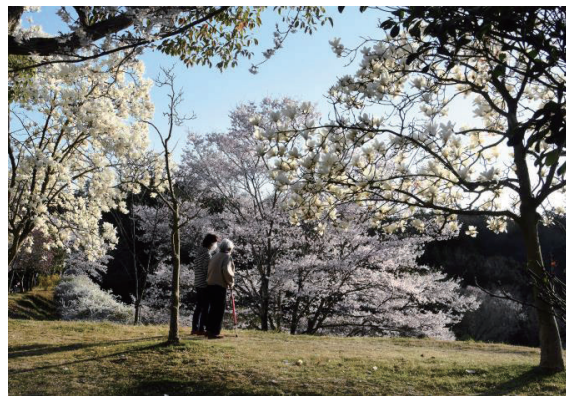
2-1 最優秀作品(1編)、優秀作品(3編)



最優秀作品 「大阪府知事賞」
いってらっしゃい! 伏見 浩史



優秀作品 「(公財)大阪観光局理事長賞」
秋の鐘楼 井畑 亜紀子



優秀作品 「豊能町長賞」
来年も見たいね 山中 忠誠



優秀作品 「豊能町観光協会会長賞」
豊能町のウエストコースト-天使の梯、光臨-
廣瀬 敬治

2-2 ファミリー賞(8編)



「能勢町観光協会賞」
水鏡 教野 道雄



「能勢妙見山観光協会賞」
寒波来る 安部 長成



「能勢電鉄株式会社賞」
梅田から50分の稲穂も実る町
山本 幸久



「大阪北部
農業協同組合長賞」
らんまん桐谷 美穂子



「池田泉州銀行
ときわ台支店長賞」
おはよーぼくコサメビタキ
前谷 誠子



「かめたに賞」
ひ孫と暑い夏
山本 徹

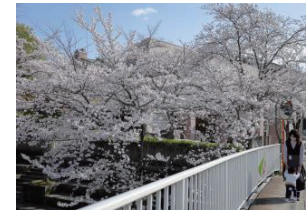


「山口食品賞」
柿満天
桑名 弥栄

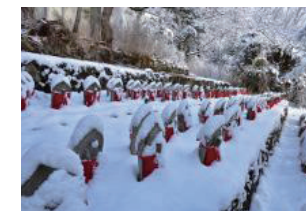


「だいやす賞」
笑顔がこぼれるまち
大竹野 晴久

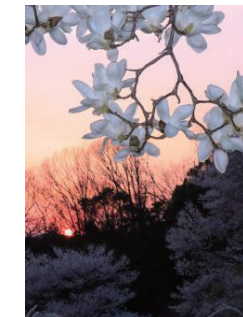
2-3 入賞(14編)



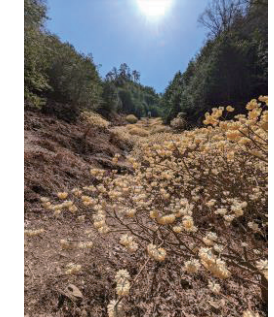
いちに、いちに、
さくらだよ!
中屋 省三



綿帽子
岡野 孝子



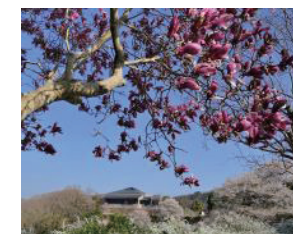
春の夕暮れ
竹内 壽一



谷間のミツマタ群生
西村 照夫



秋に染まる
佐藤 千鶴子



春爛漫
辻本 勝夫



ルリビタキ
熊谷 隆



ときわ台公園からの
入道雲
梶本 式男



帰ってくる場所
西原 舜一



山門秋色
原田 忠昭



感動の出会い
大橋 豊



ふたりの公園
デビュー
吉岡 雅朗



春のシートス
武山 元信



光
笹川 幸廣